

停止中の柏崎刈羽原子力発電所 7 号機における  
主排気筒からのヨウ素等の検出について

平成 19 年 7 月 17 日  
東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

当所 7 号機（改良型沸騰水型、定格出力 135 万 6 千キロワット）は、平成 19 年 7 月 16 日新潟県中越沖地震の影響により停止しておりますが、7 月 17 日午後 1 時頃、週に一回実施している主排気筒の定期測定<sup>\*1</sup>において、ヨウ素および粒子状放射性物質（クロム 51、コバルト 60）を検出いたしました。検出された総放射エネルギーは、約  $3 \times 10^8$  ベクレルであり、これによる線量は、約  $1.1 \times 10^{-7}$  ミリシーベルトで、法令に定める一般人の 1 年間の線量限度（1 ミリシーベルト）に比べて極めて低いものであり、周辺環境等への影響はありません。

今後、他の主排気筒について測定を実施する予定です。

なお、7 号機主排気筒放射線モニタ<sup>\*2</sup>およびモニタリングポストに有意な変化はありません。

以 上

\* 1 定期測定

発電所の排気筒・排気口ごとに設置されているフィルタを約 1 週間ごとに取り替え、放射能が含まれていないかを確認するもの。

\* 2 主排気筒放射線モニタ

建物内の空気はフィルタなどを経由し排気筒から放出している。主排気筒放射線モニタは環境への放出にあたり排気中の放射線を測定する装置。